

**劇団120EN
5月公演**

5月28日(土)福島大学演劇研究会や福島演劇鑑賞会などのメンバーで構成している劇団1200EN(ひやくにじゅうえん)は、ふくサポ多目的ホールで5月の公演「ヤンキーとストーカー」を上演した。「気軽に気楽にお芝居を」をモットーに、月1回を目標に定期的に公演を行うことにしている。この日もたくさんの人が観劇のために訪れた。劇団1200ENでは、演劇を地域の身近な文化にすることを目標に活動している。6月26日にもふくサポ多目的ホールで「神話前夜」の昼夜2回公演を行い、震災以来、暗いニュースが多い地域の活性化に一役かっている。今後の活動も楽しみだ。

(下写真) 5月の公演「ヤンキーとストーカー」



**アートさをり
初夏の風展**

(下写真) 全国のさおり織りの仲間から届いたあたたかいメッセージつきの作品



第10回初夏の風展が5月26日(木)~30日(月)の5日間にわたりアートさをりにおいて開催された。今回は震災を受け~負けないよ ふくしま~というテーマのもと、全国のさをり織りの仲間から届いた作品やアートさをりのみなさんが作成した特製エコバックを販売し、売上を震災復興のために寄付するという。「震災の後でみなさんいらしていただけないのではないかと心配したのですが、例年以上にたくさんの方が訪れてくれたんですよ。被災された方へ何かしたいという方がたくさんいらっしゃるんですね。」と飯塚所長は話された。訪れた方々は、アートさをりのみなさんのさわやかな歌声とあたたかなさおり織りにむかえられ、ほっとするひとときを過ごした。



(上写真) 作品に見入る来場者

ふくサポ探検隊~ニャンコ隊長、交流広場の今を語る~

企画展示と素敵なエピソード

現在、ふくサポでは「懐かしの福島写真展」が開催されている。(フクシマサービスグラントクラブ主催)この写真展は3月にも開催されたが、3月11日の震災により展示を短縮して終了した。しかし、今回、ふくサポ利用者からの強い要望があり、街を元気にしたいと、再度開催された。



(上写真) 寄贈された写真

開催中、明治、大正、昭和の時代の貴重な福島の写真を約30枚、寄贈して下さった男性の来館者がいた。その写真の中にはオープン当初の競馬場や、明治時代の紅葉山公園、大正時代の駅前通りなどが写し出されており、一度見た来館者もまた、新たな感覚で楽しめる写真展となった。



今回は交流広場に注目してみました。

ニャンコ隊長

今後の交流広場情報

ふくサポでは今後も、地域の活動団体の企画展を予定している。7月は福島わらじまつり実行委員会などによる「福島わらじまつり 今昔物語」(写真展) 8月はふくふくプロジェクトによる「東日本大震災福島県太平洋沿岸地域の写真展」。交流広場にての展示を希望の団体はふくサポまでご連絡をください。



(上写真) 福島わらじまつり写真

~お知らせ~

以前にもお知らせしましたが、映画にもなりました「もしも、高校野球のマネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら」の本がふくサポにもございます!!是非ご利用ください。(貸出可能です。)

編集後記

東日本大震災から3ヶ月以上の時が過ぎました。長いような、短いような不思議な時の感覚の中、日々、地域のため、誰かのために活動されている皆様には、頭が下がる毎日です。ふくサポには、毎日、全国からたくさんのあたたかい言葉が寄せられています。中には、電話口で「頑張ってください。」と涙ぐまれる方もいらっしゃいます。こういった言葉は活動されている方々の力になると思います。活動団体、ボランティアの皆さん、お一人、お一人にメッセージをお届けしたいところですが、ふくサポも日々の業務にまわっている状態です。編集後記をもって全国の皆様のお気持ちをお届けさせていただきます。

H23.6月
内山、桜井



**ふくサポ
通信**

2011年6・7月号

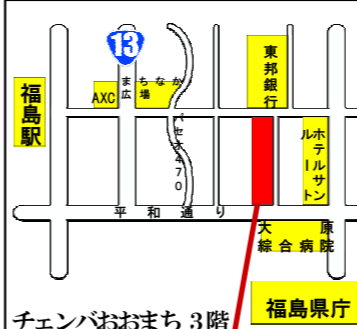
発行日: 2011年6月30日
編集: 特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター
発行: 福島市民活動
サポートセンター
〒960-8041
福島市大町4-15
チェンバおおまち 3階
TEL: 024-526-4533
FAX: 024-526-4560
URL: http://www.f-ssc.jp
E-mail: f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間
午前10時~午後9時30分
■休館日
毎週火曜日

ふくサポとは...
・市民活動やボランティアの情報を提供しています。
・市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。
・登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。
なお、ふくサポの運営は福島市から委託を受けたNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが行っています。

**ふくサポの
連絡先は**

こちらから→



◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、車でお越しの際は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。



- コラム 市民部市民活動支援課長新任ご挨拶
- 福島市の活動団体を訪ねる
- 第17回 フィールアニマル
- 変化するニーズ 災害支援最前線
- 助成金・イベント・災害支援など情報
- 今月の図書紹介
- 登録団体活動レポート/アートさをりetc
- ふくサポ探検隊
~にゃんこ隊長、交流広場の今を語る~



コラム

「新任ご挨拶」

(福島市民部市民活動支援課長/嶋原弘志)

5月1日付の人事異動により、市民活動支援課長となりました嶋原弘志と申します。

はじめに、この度の東日本大震災で被災されました、福島市民をはじめ、多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

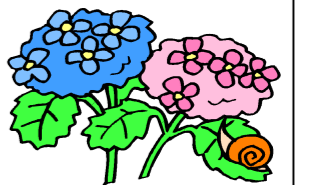
また、市民やNPO団体をはじめ多くの方々にボランティアとして支援活動をいただき、さらには水、食糧、衣類などの支援物資を多数いただきましたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

さらに、原発事故による環境放射能の健康被害への懸念など課題が山積しております。このような中、市民活動団体の皆様には、現在、さまざまな支援活動を展開していただいておりますが、地域社会の復興のためには、この諸活動がますます重要となりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、本市では市民との協働のまちづくりを推進するため、協働の担い手の育成・支援と市民活動の促進を図ることを目的として、平成17年3月にボランティア、NPO等の市民活動の拠点となる「市民活動サポートセンター」を設置し、各種施策、事業に取り組み、多くの市民活動団体の皆様にご利用いただいているところであります。

また、協働を支える仕組みづくりや市民との情報の共有、協働の担い手となる人材の発掘、育成をより推進するため、市行政機構の見直しを行い、市民部と総務部で取り組んでいた事業を一元化した市民活動支援課が5月1日より新設されました。

平成23年度は、市民活動サポートセンターの機能がより効果的に発揮され、本市における自主的なボランティアや市民活動が推進されるよう各種事業を展開して参りますので、市民活動団体の皆様にサポートセンターを充分にご活用いただきたいと考えておりますので、今後ともよろしくようお願い申し上げます。



福島市の活動団体を訪ねる

風評被害などの暗いニュースが飛び交う6月、そんな毎日に癒しの時間を・・・と、大忙しで活動されている ボランティアグループ フィールアニマルの代表の方にお話を伺ってきました。

①回目 ボランティアグループ フィールアニマル
 代表者：代表 近藤サト 氏
 スタッフ数：約10名
 活動歴：平成11年に発足し、活動歴は今年で13年目になる。

素敵な仲間たちがたくさん
 いました！！(笑)



サボワン

活動内容：高子沼の近くにあるかわいい犬や兎の置物が出迎えてくれるお宅、そこがフィールアニマルの事務所だ。取材の日もわんちゃんのにぎやかな鳴き声で出迎えられた。

フィールアニマルは老人ホームや幼稚園、小学校、病院、養護施設、障がい者施設などからの依頼やイベントがあれば、そこに出向き動物とのふれあいの機会を提供し、アニマルセラピー（動物に触れ合うことで心のケアをする）を行っている。



(上写真)避難所の方たちと一緒に一枚

「よく新聞で活動をお見かけしますが、ニーズは多いですか？」との質問に近藤代表は、予定でピッシリうまった年間スケジュール表を見せてくれた。なるほど、週に3～4日は稼働しているスケジュールは、忙しい現代人の孤独感や癒しを求める人々の多さを物語っている。

さぞかしたくさんのスタッフが活動しているのであろうと、ボランティアスタッフの人数を聞いてみると、発足から13年いつも10人前後だったと言う。しかもニーズが多い平日は2～3人で活動していると言うのだ。その訳を近藤代表はこんなふうに語ってくれた。「連れていく動物はみんなスタッフが飼っている動物なんです。小さい頃から、アニマルセラピーができるようにしつけています。連れていく動物は検便などをこまめに行い、病原菌などを持ち込まないように検査をしなくてはなりません。公益社団法人 日本動物病院福祉協会のお墨付きをもらうわけです。この検査は決して、安いものではありませんが、料金はスタッフが自己負担しなければならぬんです。さらに、シャンプーやガソリン代など自己負担の額も大きい。だから、なかなか続かない方も多いです。それに平日の依頼が多いので、働いている方はなかなか活動できないのも事実です。もちろん、土日祝日をメインとするイベントもありますので、そういった日は、日ごろ働いている方にも参加してもらっていますが・・・。私もやめようかと思ったこともあるのですよ。でも、求めてくれる人たちがたくさんいるからやめられないんです。」その表情はどこか楽しげだ。

「私たちは教育現場を訪れる時には聴診器を持っていくんですよ。動物の胸にあてると、ドクン、ドクンと、私たちと同じ命を刻む音が聞こえてくるでしょう？きっと、その音は命の大切さを伝えてくれます。動物は何も語らないかもしれないけど、その暖かさや、やわらかさは、寂しさを和らげてくれます。自然と笑顔になるんです。動物が嫌いな方ももちろんいらっしゃるでしょう？でも、見ているうちに、さわってみたくなるらしいんです。手が麻痺してリハビリが必要な人も、動物に触ることで、リハビリができるし、会話がなかなかでなかった人も、会話ができてきます。不思議なんですよ。」近藤さんの目にはその時の情景が見えているようだった。

その時、部屋の隅にあった籠が揺れた。何だろう？と思って、覗いてみると兎が目を覚ましたようだ。「この兎もね。洋服を着るとお仕事だ。と思うようなのはだかんぼうだと、普通の兎なのにねえ・・・。」不思議そうに語る。

昨年度、フィールアニマルにはたくさんの感謝状が授与された。これまでも、たくさんの方々から感謝の言葉と気持ちをもたらしてきた。みんなからいただく喜びの言葉は彼女達の元気になるようだ。「求める方がいるかぎり、私たちは、相手に満足してもらえるような活動をめざしながら、これからも命の大切さを伝えていきたい。」そんなふうに語ってくれた。

先日、避難所でアニマルセラピーをおこなってきた。大震災を経て、今、きっと誰もが命の大切さを痛切に感じていることだろう。命の伝道師フィールアニマルは今日は、どこへむかうのだろうか？ぬくもりという友を傍らに携えて・・・。(取材：内山愛美)



(左写真) これまでいただいた感謝状の一部

変化するニーズ！！ 復興支援最前線

3月11日の東日本大震災で福島県では、たくさんの犠牲者をだし、多くの人々が避難を余儀なくされた。震災から、3ヶ月たった今でもその爪あととは大きい。そんな地域を復興させようと多くのボランティアが活動を開始した。ふくサポでは、そんな頑張る人たち取材した。

復興支援バザー

6月12日(日)・19日(日)・26日(日)の3週にわたり、花見山のふれ

あい茶屋・さくらにおいて「がんばろう福島！復興支援バザー」が開催された。(NPO「花見山を守る会」主催)

バザーの開催を知った近所の渡利地区の方はじめ新聞等で情報を得た遠方の方々からも品物が寄せられた。バザー会場には衣類や食器、手作りの雑貨、家電など多くの品物が並べられ来場者は買い物を楽しんだ。会場ではルワンダの教育を考える会のチャリティーコーヒー販売も行われた。バザーの売上金は全額あし



(上写真)バザー会場の様子



(上写真)チャリティーコーヒー販売の様子

なが育英会へ、会場で募った義援金はふくふくプロジェクトへ寄付される。復興支援のため、何かをしたいが何をしたらよいかと考えていた方々も、バザーに参加することで支援に協力できると喜んでいて、「花見山を守る会」では長期にわたる支援活動が必要だろうと、今後も定期的にバザー開催を続けたいと話していた。

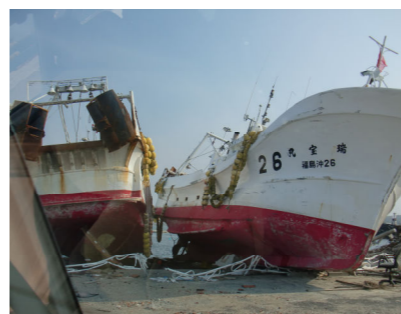
ふくふくプロジェクト報告

6月4日(土) ふくふくプロジェクト幹事会は、被災地が、今、本当に

何が必要なのかを知り、復興プロジェクトをいかに役立てていくかを思案するため、浜通りの災害復興支援活動をしている市民活動団体と懇談会をおこなった。

今後、浜通りの市民活動団体とも、ネットワークを結び効率的に支援を進めていく予定だ。

ふくふくプロジェクトでは、毎日新聞の中の災害復興情報ページ「希望新聞」にコーナーを設け、活動団体のニーズ情報を掲載している。ニーズ情報をもつ団体には、是非、情報提供をし、広報に役立ていただきたい。



(上写真)懇談会で訪れた際に撮影した現地の風景

コドモシェルター

(下写真)子どもたちが作成した「未来の海」がテーマの模型

6月6日(月)・25日(土) あずま総合体育館でコドモエガクマチワークショップが連続開催された。(Creative for Humanity主催)



このイベントは「元気になってもらいたい」との思いを胸に、震災直後、避難所の子もたちが「未来の海」をテーマに模型作りにチャレンジ。その模型には故郷の海への愛情がこめられていた。また、津波からまちを守るための高い防波堤や震災の神様、原発に頼らないための電波塔、自給自足のための田畑、勇気をくれた桜の木など、そこには、つくる側の思いがこめられた都市計画が存在した。この震災がもたらした犠牲はあまりにも大きい、そこには子ども達の成長がみられた。

近い将来、このまちを現実に目にするには、あるのだろうか？それは本当の福島を取り戻す日かもしれない。「そのためにも大人を元気にしたい」と、主催者は語る。

子どものかくれがをモチーフにトンネル、ちゃぶ台が用意されたこのワークショップは、今後も開催予定。



(下写真)ワークショップ風景

その他の復興支援活動

- ・子どもを放射能から守る福島ネットワーク「さよなら！放射能祭り」など、放射能についての講演や食品の放射能測定イベント
- ・市民公益活動パートナーズ 復興塾（震災関連についての勉強会）を連続開催など
- ・ルワンダの教育を考える会 (下写真)「さよなら放射能祭り」食品の放射能測定
- ・シャローム 避難所へ夏物の洋服配布



etc

助成金 活動支援 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

子育て支援の企画募集
 〈対象〉新たに取り組む子育て支援事業
 テーマは次の4つ 1 交流事業(親子の集い・世代間交流・情報交換の場の提供等) 2 父親の子育てを促進する事業 3 子育て相談事業 4 その他地域の実情に応じた子育て支援事業で、県が必要と認めたもの。NPO法人、社会福祉法人、子育てサークル、地域の自治会。
 〈補助額〉1事業あたり上限50万円
 〈応募締切〉平成23年7月29日(金)
 〈お問合せ先〉
 福島県保健福祉部子育て支援課
 電話 024-521-7198

Panasonic NPO サポート ファンド for アフリカ
 〈対象〉アフリカの課題に取り組む民間非営利組織
 〈助成対象事業〉アフリカの課題解決に取り組むNPO・NGOにおける広報・発信・啓発事業
 〈助成金額〉1団体あたり上限100万円
 〈応募締切〉平成23年7月29日(金)
 〈お問合せ先〉パナソニック株式会社
 コーポレートコミュニケーション本部
 社会文化グループ 担当:田中
 電話 03-6403-3140

第8回パートナーシップ大賞
 〈対象〉社会の変化を創発するNPOと企業の協働事業
 〈支援金額〉
 パートナーシップ大賞 グランプリ
 …記念盾・NPOには副賞30万円
 パートナーシップ賞 5事業
 …記念盾・NPOには副賞10万円
 〈応募締切〉平成23年7月31日(日)
 〈お問合せ先〉特定非営利活動法人
 パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
 「パートナーシップ大賞 募集係」
 電話 052-762-0401

公益財団法人日野自動車グリーンファンド平成23年度助成事業
 〈対象〉自然環境保全に資する樹木や草花の植樹の実施、自然環境保全活動の実施、自然環境保全に資する教育や諸啓発活動の実施等を行う団体・グループ・個人等
 〈助成金額〉総額750万円程度(予定)
 〈応募締切〉平成23年7月31日(日)
 〈お問合せ先〉公益財団法人
 日野自動車グリーンファンド 事務局
 電話 042-586-5369

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業 <第3次応募>
 〈対象〉東日本大震災で被災された方がたへの救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人等
 〈助成金額〉短期(1ヵ月未満)活動:1週間以内…10万円以内、1ヵ月未満…50万円以内
 中長期(1ヵ月以上)活動:300万円以内
 〈応募締切〉平成23年7月31日(日)
 〈お問合せ先〉社会福祉法人
 中央共同募金会企画広報部
 (サポート募金担当)
 電話 03-3581-3846(代)

Panasonic NPOサポート ファンド
①環境分野 ②子ども分野
 〈対象〉①環境問題の解決に取り組むNPO
 ②子どもたちの健やかな育ちを応援する新しい社会づくりを目指し、先駆的な活動と自己変革に挑戦するNPO
 〈助成対象事業〉第三者の視点を入れて組織診断を実施し、組織課題を抽出したうえで、自らが課題解決策を策定する事業
 〈助成金額〉①②とも1団体あたり上限100万円
 〈応募締切〉平成23年8月1日(月)
 〈お問合せ先〉
 ①NPO法人 地球と未来の環境基金
 担当:美濃部・木村 電話 03-5298-6644
 ②NPO法人 市民社会創造ファンド
 担当:坂本・武藤 電話 03-3510-1221

**東日本大震災被災地支援
パソコン寄贈・貸出プログラム**
 〈対象〉寄贈…被災した非営利団体、教育機関
 貸出(1年間)…被災した障がい者、高齢者(65歳以上)、子育て中の主婦(障がい者手帳、高齢年金手帳、母子手帳をお持ちの個人に限る)
 〈応募締切〉平成24年3月31日(土)
 ※申請台数が予定台数に達した時点で終了
 〈お問合せ先〉
 NPO法人 イー・エルダー 東北支部
 電話 022-796-8091

**財団法人JKA RING!RING!プロジェクト
東日本大震災復興支援補助**
 〈対象〉被災地域および被災者受入地域における支援拠点づくり活動、被災者や被災地域が自ら行う復興(まちづくり、くらしづくり等)活動等。NPO法人、社会福祉法人その他公共的な団体。
 〈支援金額〉予算総額1億円
 1団体あたり300万円以内
 〈応募締切〉予算総額に到達次第
 〈お問合せ先〉
 財団法人JKA 補助事業グループ
 公益・福祉振興チーム 復興支援担当
 電話 03-3512-1276

お知らせ・ イベント 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

公開講座『成年後見研修会』
 “成年後見制度”を総体的に、また実務に則して理解することができる!!
 〈場所〉郡山市労働福祉会館
 〈開催日時〉
 6月16日(木) 13:00~17:00
 6月23日(木) 13:00~17:00
 6月30日(木) 13:00~17:00
 7月7日(木) 13:00~18:30
 〈参加費〉資料代 1日につき500円
 〈お問合せ先〉特定非営利活動法人
 ふくしま成年後見センター
 TEL・FAX 024-535-5451

劇団文化座 てけれっつのは
 〈内容〉明治14年、小樽。何でも商う「しし屋」に暮らす女たちにはそれぞれの事情があった。「てけれっつのは」と呪文を唱えればイヤなことは吹き飛ばせる!
 〈場所〉福島テルサFTホール
 〈日時〉7月10日(日)15:00~
 11日(月)13:30~ 18:30~
 12日(火)13:30~
 〈費用〉入会金 1,000円
 月会費 一般 2,400円
 大学生 1,500円
 高校生以下 500円
 〈お問合せ先〉福島演劇鑑賞会
 TEL 024-523-3836

**福島中央子ども劇場 低学年部第109回例会
民族芸能アンサンブル 若駒による
ずっこけ狂言ばなし だろろ ピカ ぼん**
 三味線ロックにのせてはじまりはじまり~
 ピーヒャラポン! 若駒仕立ての狂言ばなし三部作!
 〈日時〉7月18日(月・祝)
 午後2時~3時30分
 〈場所〉北信学習センター
 〈料金〉会員制 入会金200円
 会費4才以上月額1000円
 (3才以下無料)
 〈お問合せ先〉福島中央子ども劇場
 電話 024-533-7323

**「ドキュメンタリー
ピュア~ビルマ難民キャンプの
子どもたち 希望の鐘 上映と講演会」**
 〈内容〉ビルマで長く続く軍事独裁政権からタイの難民キャンプに逃れてきた人びと。その中でもピュアな子どもたちの様子をカメラが映し出す。(上映45分)あわせてSCDB代表 コラット氏を迎えて、講演会を開催。
 〈場所〉福島市市民活動サポートセンター
 〈日時〉7月30日(土) 13:30~15:30
 〈参加費〉無料
 〈お問合せ先〉アムネスティ福島グループ
 結成準備委員会 おおた
 TEL 080-3337-3831

「夢ノート発売!!」
 自分のことを書き記しておきたい!家族に伝えておきたい!趣味は?家系図?大事なものの場所?そんな方におすすめの福島発信のエンディングノートです。(定価500円)
 〈お問合せ先〉NPO法人
 市民後見サポートの会 遠藤
 TEL 024-522-1426



ふくサポ 展示 情報

「福島わらじまつり今昔物語」
 〈協力〉
 福島わらじまつり実行委員会
 福島商工会議所
 福島青年会議所
 〈期間〉7月2日(土)~31日(日)
 ☆写真と映像で見る福島わらじまつりの歴史。懐かしいまつりの風景を是非、ご覧下さい。
 〈お問合せ先〉
 福島市市民活動サポートセンター
 電話 024-526-4533

**「東日本大震災・
福島県沿岸地域の写真展」**
 〈主催〉ふくふくプロジェクト
 〈期間〉8月1日(月)~14日(日)
 ☆東日本大震災が残した傷跡は今も色濃く残ります。そんな福島県太平洋沿岸地域をフィルムにおさめました。そこには忘れてはいけない。忘れられない情景があります。
 〈お問合せ先〉
 福島市市民活動サポートセンター
 電話 024-526-4533

災害支援 情報 物資提供・支援・ ボランティア募集 ・お知らせ etc

**「被災地・南相馬市
ボランティア参加募集」**
 ①泥かき、瓦礫の撤去
 ②思い出お返し隊(遺留品の洗浄)
 〈持ち物〉飲料水、作業着、昼食合羽、長靴、軍手、タオル、帽子、マスク、スコップ、身分証名書等
 〈お問合せ先〉NPO「花見山を守る会」
 担当 高橋
 TEL 024-539-8908

「ふくふくプロジェクト」
 毎日新聞の「希望新聞」コーナーに支援活動をする上で必要な物を掲載できます。ニーズ情報を全国の方にお知らせするチャンスです。掲載希望のある方は、下記まで。
 〈お問合せ先〉ふくふくプロジェクト
 (福島市市民活動サポートセンター)
 TEL 024-526-4533

交流コーナーから、今月の図書紹介

知っておきたいNPOのこと ~信頼されるNPOの7つの条件~NPOの基礎知識Q&A
 /編集・発行(特活)日本NPOセンター
 日本NPOセンターが各地の支援センターと協力して作成した「信頼されるNPOの7つの条件」と、webで公開されている「NPO基礎知識Q&A」を再編集した従来の「知っておきたいNPOのこと」が、「増補版」として登場。誰もが抱くNPOへの疑問から新公益法人制度の解説、また、新旧公益法人の比較など、増補版の名にふさわしい内容。
 (コメント)NPOをたちあげる人に、必ず伝えなければならないことを、ギュッと詰め込んだ一冊ではないでしょうか?短い時間でNPOが解ること間違いなし!です。
 交流コーナー図書スペースで閲覧できます。貸し出しには、免許証などの身分証が必要です!!

